㊨　子ども農業体験活動支援事業

予算要求額　1,481 千円

1　目　　的

県内各地域において年間を通じた農業体験学習活動を実施する団体等に対して県として支援を行うとともに、実施団体の連絡組織の設立や交流会の実施により、「食育」に対する機運の醸成を深め、子どもたちが地元を知り、地域とのつながりを肌で感じる「体験的食育」の推進を図る。

2　事業概要図

【農業体験活動実施団体】

①対象団体

地域の小学生等を対象に年間を通した農業体験等のカリキュラムを組み指導する団体
（市町村、ＮＰＯ法人、農業者団体、地区育成会等）

※「土づくり→種まき→植え付け→草取り・水管理等の栽培管理→収穫→加工・調理」という一連の活動を年代の異なる子どもたちがみんなで力を合わせ、農家先生のもと、楽しく学習を進めることにより、児童の「豊かな心」「社会性」「主体性」等を育成

②活動内容

◆通年の農業体験等の提供
- は種、植え付け、草取り、収穫
- 農産加工・調理
- 販売
- 生き物調査　etc

◆地域住民との連携
◆活動成果の取りまとめ　など

連携・支援

・現地で実施される農業体験を生徒へ周知
・活動報告等の情報発信　等

■支援体制

県（農政部、教育委員会）
- 推進手法の検討
- 市町村推進体制への支援
- 農家先生サポート

市町村（教育委員会、農業委員会、農政担当部局）
- 市町村の内部調整
- 農地の斡旋
- 保護者との連携　等

■支援内容

①新たな取組団体への活動支援
- 初度的活動への助成（単年度）

②体験を通じての「食育」に対する機運の醸成
- 農業体験活動実施団体連絡組織の設立
- 交流大会の開催
- 地域での取組事例の収集・情報発信

【先進団体の事例】

【信州すざか農業小学校】　（須坂市）H17～
- 指導者：地区の農家先生
- 参加児童数：（平成 22 年小学生 50 人）
- 授業内容：米、野菜等の栽培及び調理など
- 授業日：月 2 回土曜日の午前中（年間 18 日）

※市教育委員会が委嘱したボランティアの農家先生による農業小学校

【桜柿羊（おうしょう）の里農業小学校】　（松本市）H13～
- 指導者：地区の農家先生、信大ボランティア
- 参加児童数：（平成 22 年 33 家族）
- 授業内容：米の栽培の他、羊の毛刈りや農産加工など
- 授業日：週末（年間 10 日程度）

※農業・農村並びにやぎ、羊などの動物が持つ教育力を活用した農業小学校

◆両小学校は岐阜県の「荒城（あらき）農業小学校」、「椛の湖（はなのこ）農業小学校」と姉妹校になり、毎年交流会を行っている。

成　果

「体験的食育」の拡大
（県下の取組を点から面に拡げます）

児童は、楽しさの視点から・・・
①食を大切にし、自ら学ぶ心が育まれます。
②農業や地域への関心が高まります。
③汗を流し働くことの大切さを学びます。

地域は、児童との協働により・・・
①活性化します。
②遊休農地活用の機会が生まれます。

3　事業効果

（1）　食べものへの興味・関心、農業に対する知識・理解が高まります。
（2）　人と協力する姿勢や汗を流して働くことの大切さへの気付きが生まれます。
（3）　地元を知り、地域とのつながりが深まります。
（4）　遊休農地の活用が図られます。